

# 第13回 城西大学 英語スピーチコンテスト プログラム



第13回 城西大学

# 英語

スピーチコンテスト

The 13th Josai University  
English Speech Contest

オンラインで  
実施!

2024年8月1日(木)  
10:00~  
(午前:大学の部 午後:高校の部)

世界へ届け、あなたの声

## 応募資格

高校の部:高校、高専の1~3年次に在籍する英語を母語としない者  
大学の部:大学、短大、高専の4~5年次、大学院、専門学校に在籍する英語を母語としない者  
※以下の部、以下の96~107のDかつも併せては応募できません。  
(※ 募集した1年以上、卒業後、卒業後第一就職、引当、または1年以上の海外研修として海外に滞在した者  
(※ 日本国内、海外両方の大学、専攻として卒業した者を含む)の学校に入学した者  
(※ 入学した1年以上、卒業後、卒業後第一就職、引当、または1年以上の海外研修として海外に滞在した者  
(※ 入学した1年以上、卒業後、卒業後第一就職、引当、または1年以上の海外研修として海外に滞在した者

## 応募締切

2024年6月21日(金)13:00



〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1番1号

城西大学 12号館内

「第13回 城西大学英語スピーチコンテスト」大会事務局

TEL:049-271-7884 E-mail:speech@josai.ac.jp

ホームページ: [https://www.josai.ac.jp/lang\\_education/introduction/contest/](https://www.josai.ac.jp/lang_education/introduction/contest/)

## 応募方法

QRコードを読み取り、応募フォームからお申込みください。

なお、応募フォームを完成させるためには次の内容が必要です。

- 応募者に関する情報、スピーチのタイトル(英語と日本語の両方)、600字程度(日本語)の日本語原稿
- 募集要項に記載されている詳細文を官製した音声ファイル

※ 城西大学のホームページからも応募フォームにアクセスすることができます。[第13回城西大学英語スピーチコンテスト]をご覧ください。

※ 応募フォームからの応募が困難な場合は、大会事務局にご相談ください。

※ 音声ファイルは、MP3形式が望ましいですが、携帯電話などで録音・録音したファイルでも構いません。

※ 音声ファイルが応募フォームに添付できない場合は、下記メールアドレスへのメール添付での提出を受け付けます。

応募フォームはこちら



主催	城西大学スピーチコンテスト実行委員会	
後援	埼玉県 埼玉県教育委員会 坂戸市 坂戸市教育委員会 埼玉県市 埼玉県教育委員会	テレビ玉 毎日新聞社 埼玉新聞社 坂戸市商工会 西入岡青年会議所 城西大学同窓会 城西大学父母後援会

## 主催

城西大学リベラルアーツセンター

## 後援

埼玉県

埼玉県教育委員会

坂戸市

坂戸市教育委員会

鶴ヶ島市

鶴ヶ島市教育委員会

テレ玉

毎日新聞社

埼玉新聞社

坂戸市商工会

西入間青年会議所

城西大学同窓会

城西大学父母後援会

# スケジュール

---

## Zoomによるオンライン開催

- 9：30 - 9：50 出場者説明会
- 10：00 - 10：10 開会式
- 10：10 - 11：15 大学の部
- 11：15 - 12：00 休憩
- 12：00 - 13：05 高校の部（前半）
- 13：05 - 13：15 休憩
- 13：15 - 14：20 高校の部（後半）
- 14：20 - 14：30 休憩
- 14：30 - 15：15 オンライン交流会
- 15：15 - 15：45 表彰式、閉会式、記念撮影

## 登壇者紹介（登壇順）

### 大学の部

1	吉田 莉恩	人間総合科学大学 人間科学部 心身健康学科	2年
2	鄭 汪佳	城西大学 現代政策学部 社会経済システム学科	1年
3	宮下 真季	立命館大学 法学部	2年
4	安川 琴美	武庫川女子大学 文学部 英語文化学科	3年
5	CHEN HAO	東京ビジネス外語カレッジ	1年
6	佐藤 奎太	城西大学 現代政策学部 社会経済システム学科	4年
7	清水 愛夏	東京薬科大学 生命科学部 生命医科学科	4年

### 高校の部（前半）

1	古谷 智香	本庄東高等学校 特進選抜コース	2年
2	中島 紗良	中央大学附属高等学校	2年
3	米澤 心花	埼玉県立松山女子高等学校 普通科	1年
4	桂 りり	関西学院千里国際高等部	3年
5	山下 藍未	淑徳与野高等学校	1年
6	浅賀 葵	埼玉県立坂戸高等学校 外国語科	3年
7	河村 翔	大阪偕星学園高等学校 特進コース	3年

### 高校の部（後半）

8	関原 みなみ	大妻嵐山高等学校	2年
9	春田 美紀	埼玉県立春日部女子高等学校 外国語科	1年
10	西 遙空	朋優学院高等学校	2年
11	下田 有紗	麻布大学附属高等学校 普通科	3年
12	平田 心花	埼玉県立不動岡高等学校 普通科	2年
13	伊藤 千悦	星野高等学校 普通科	2年
14	永島 安紗	東京都立日比谷高等学校 普通科	2年
15	馬場 璃央	秋草学園高等学校 普通科	2年

## 発表要旨（大学の部）

1. 吉田 莉恩	Strength Comes from Believing in Yourself
	自分を信じることで強くなれる
<p>困難な壁に直面した時、自分の可能性を信じることは簡単ではない。私は自己否定の連鎖に陥った。しかし、様々な道のりの中で、自分を信じるのが困難を乗り越える力を強くすると学んだ。</p> <p>私は 16 歳のころ、心身ともに体調を崩した。上手くいかないことが多い日々、積み重ねてきたものが一瞬で崩れ、挑戦や努力を恐れるようになった。しかし、私を信じてくれる人がいたおかげで、自己分析や相談を通じて、少しずつ前進した。そして、自己否定から得られるのは更なる自己否定だけだと気づき、自分を信じるのが重要だと理解した。</p> <p>今の私は、自分の可能性を信じることの大切さを多くの人に伝えていきたいと思っている。だが、辛い状況で前向きな気持ちを持つことはとても難しい。なぜなら、負の感情は、頑張ろうとする気持ちをいとも簡単に奪い去ってしまうから。だからこそ、私自身が誰かの可能性を信じ続けることで支えになりたいと思う。自分がしてもらったように、「あなたの強さはこれだよ」と伝え、再び前に進む力を与えたい。その一つとして、同じ境遇の人への支援活動を開始し、彼らの孤独を軽減するために様々な取り組みをしている。</p> <p>この世界には、点数や良し悪しだけでは表せない素晴らしいものがたくさんあり、一人ひとりの存在もまたその一つだろう。困難を抱えるすべての人が、自分の可能性を信じることで新たな道が開けることを願っている。</p>	

2. 鄭 汪佳	Japan as seen by a international students
	留学生から見た日本の姿
<p>日本に来て三ヶ月が経った。この間、色々な日本と中国の違いを感じた。食事のマナーや公共交通機関の利用マナーなど、深い印象を受けた。今回は主に日中の言語行動の違いについて説明する。以下の三点について話す。</p> <p>まず第一に、日本人と中国人の質問に対する回答の違いだ。日本人は質問を考えながら、同じ内容の質問を繰り返すことがある。サークルのメンバーは時々自分の持ち物を忘れることがあり、その際、部員は「これ誰の？」と何度も尋ねる。自分が知らないときは「わからない」と答えるが、日本人の社員は「これは誰のかな？」と同じ質問を繰り返す。中国人にとって、これは少し違和感があるが、日本人にとっては自然な対話の一部だ。</p> <p>次に、日本人は他の人と対話する時に、相手や自分の呼びかけを省略することが多い。これは、初めて日本語を勉強し始めた時にも感じたことだ。例えば、中国人なら「私は今日りんごを食べました」と言うが、日本人は「今日りんごを食べました」と主語を省略する。学生が先生に話しかける時や友達同士で話す時も、相手の名前を呼ぶことが一般的だ。そうしなければ、会話の始まりが唐突で失礼に感じられる。中国人の会話は、将棋やキャッチボールのように、対話が往復運動であると言える。日本人が人を誘ったり提案をする時、否定的な疑問文を使うことが多い。例えば、「～ないか?」。一方、中国人は普通の疑問文や陳述文を使うことが多い。例えば、「～する?」。これは、日本人と中国人の人間関係における距離感の違いに起因している。中国人は親しい人に対して心理的な距離感が日本人よりも短いと感じている。一方、日本人は家族や友人に対しても多くの礼儀を重んじる傾向がある。</p> <p>日本に来て、自分の国と違う文化を理解することは非常に面白いことだと感じている。</p>	

3. 宮下 真季	A home in my mind
	心の居場所
<p>おそらく全員が、何らかの勉強の悩みを抱えてきたのではないか。</p> <p>高校3年生だった私は、大学受験が近づくとつれて、中学生の頃から抱えてきた悩みが日に日に大きくなっていった。それは、全ての科目を満遍なくできないことである。大学入試終了後は、今まで感じたことのない無力感に包まれた。</p> <p>そんなある日、担任の先生からメッセージが届いた。卒業生代表としての仕事を私にお願いしたいという内容だった。そこには次の言葉も添えられていた。「あなたは誰よりも努力し、人として輝く大切なものを持っているので、必ずこれから良い結果が訪れると信じています！」</p> <p>なんだか気持ちが楽になった。好きなことがあることは素晴らしいことで、それだけであなたは十分輝けるのだと言われた気がした。数値化することのできない、私の3年間の頑張りを評価してもらえたことが何よりも嬉しかった。</p> <p>私は最近しばしば耳にする勉強の悩みが原因とみられる事件に問題意識を持っている。このような事態を予防することはできなかったのか。私たちはどうすればいいのか。</p> <p>私は、周りの人との対話を通じて自己肯定感を高めることが大切だと考えている。学力と違って、数値化することができないその人の人柄の良さや、頑張りこそ、私たちは目を向けるべきである。</p> <p>私は今までたくさんの人に支えられてきた結果、ありのままの自分であることができている。それに感謝しながら、1人でも多くの人があるままでいられるように、私は優しい心配りができる人になりたい。心配りは、一人一人が抱える心の荷物を下ろすことができる力を秘めていると私は信じている。</p>	

4. 安川 琴美	My Words for Peace
	平和へのことば
<p>人類の歴史は、戦争の歴史である。今から約1万5千年前の旧石器時代、人類は最初の戦争を起こした。以来、幾度となく世界中で紛争が続いている。1928年、アメリカやロシアを含む当時の列強諸国等15か国が戦争を正式に禁止する不戦条約に署名したが、現在でもなお、ロシアとウクライナの間で国際紛争が起きている。2020年に五井平和財団が世界161カ国の25歳以下の若者を対象にした調査によると、日本人の73%、世界の52%が「生きているうちに世界が平和になるとは思わない」と回答した。世界の半数以上が戦争のない世界を諦めている現状は絶望的だ。日本は現在、戦争に関わらないという点で平和な国だ。しかしこれは、日本が過去に何百万人もの命と引き換えに得た平和であることを忘れてはならない。残念なことに先の調査では、日本の7割以上の若者が、戦争のない世界に対して諦めの気持ちを示している。こうした「戦争反対への意識の低さ」が戦争の絶えない世界が続く原因である。ひとりの市民の意識だけで世界を変えることは無理かもしれないが、一人ひとりが戦争反対への声を上げることで、世界の平和を構築するきっかけとなる。世界の半数以上の人々が平和を諦める現状にあっても、私は今ここで、聴衆に平和への思いを呼び掛けたい。日本の若者の代表として、また、国際言語である英語でスピーチを実践する学生のひとりとして、世界に伝えられる力があると信じている。</p>	

5. CHEN HAO	Healing From the Inside Out 内側からの癒し
<p>私自身も患者として、慢性腎不全による肉体的疲労だけでなく、精神的な疲労や感情的な消耗も感じていました。その中で心理学の学びが、私の回復の道を開く鍵となりました。</p> <p>まず、ストレス要因をリストアップすることから始めました。これにより、頭の中で整理できていなかった問題が明確になり、心に大きな安心感を得ることができました。次に、積極的な運動を取り入れ、ポジティブな習慣を形成しました。運動の記録をつけることで、日々の進捗を確認しながら、少しずつ生活を立て直すことができました。</p> <p>また、セルフコンパッションの概念を学び、自分に対する思いやりを持つことで、困難な状況でも前向きな気持ちを保つことができました。このプロセスを通じて、私自身だけでなく、家族や友人に対する理解も深まりました。さらに、オープンなコミュニケーションの重要性を認識しました。自分の気持ちや考えを率直に伝えることで、周囲の人々との関係が強まり、サポートを受けやすくなりました。</p> <p>これらの心理学的アプローチにより、私は内面からの回復を果たし、より強くなりました。私の体験を通じて、慢性疾患の患者に対する心理的サポートの重要性を強調したいと思います。心理学は、ストレスを管理し、生活を再構築し、自分自身の困難を理解するための強力なツールです。私が心理学の力を借りて回復への道を歩むことができたように、他の患者たちも心理学の支援を受けて強くなれることを願っています。</p>	

6. 佐藤 奎太	Pierogi and Lángos ピエロギとラーンゴシュ
<p>私は大学で留学生をサポートする団体に入っています。そこでは日本に慣れてない留学生に日本での学校生活をサポートしたり、日本らしいことを体験する企画をしています。</p> <p>そこで一年間城西大学に交換留学をしているポーランド人とハンガリー人の留学生と出会い、友達になりました。私はその人達とこの団体を通して仲良くなり、この留学が終わったあとそれぞれの国で会う約束をしました。</p> <p>2023年の夏休みにその約束を果たすべくヨーロッパを旅することにしました。ワルシャワとブダペストでそれぞれと再開し、駅の使い方やスーパーでの買い物の仕方、有名な場所などを教えてもらいました。逆の立場になって、外国で生活することは非常に難しいことがわかりました。大学の団体での自分のサポートを見直すきっかけになりました。外国で仕事したり、日本で外国人と友達になったりしようと考えているなら、両方を経験することがとても重要だと思います。</p>	

7. 清水 愛夏	Equitable Education For All 教育の機会を世界中の子どもたちに
<p>10 歳の頃の思い出は何かと聞かれたら、多くの人は小学校時代を思い返すだろう。小学校進学率 100%を誇る日本では、教育を受ける権利が保障され、また 9 年間の義務教育が無償で受けられるだけでなく、教育を受けさせることが義務として保護者にも課されている。しかし我々が当たり前享受してきたこの権利は、世界中で保障されているわけではない。私の夢は、世界中の子どもたちに教育の機会を届けることである。</p> <p>そもそも、大抵のことは ChatGPT に聞けば教えてもらえるこの時代に、教育を受ける必要があるのはなぜだろうか。理由の一つは、学習を通して得られる力というもの大きいからだろう。私はこの力を、幸せを希求・追求する力だと考える。論理的思考力、豊かな文学的・芸術的感性、広い視野など、子どもたちは学習を通して計り知れないほどの力を得る。これらの力が、子どもたちの生活を豊かにし、選択肢を増やし、さらには夢を持つこと、それを追うこと、そして幸せに繋がるのではないだろうか。教育を通して得た力を持って、幸せを追い求める権利は、すべての子どもたちに余すところなく保障されるべきだろうというのが私の主張であり、この実現が夢である。</p> <p>DGs の目標 4 に、「質の高い教育をみんなに」という項目がある。1948 年の世界人権宣言により教育を受ける権利が宣言されてから 70 年以上が経った今も、中東情勢や軍事侵攻、飢餓や貧困により教育への障壁が多い子どもたちがいる。来年から教育分野の一角を担う者として、世界中の子どもたちのための改革を行なっていきたいと考えている。</p>	

## 発表要旨（高校の部 前半）

1. 古谷 智香	Living Together with Foreign People 今必要なこと
<p>政府観光局の統計によると 2024 年 5 月の訪日外客数は約 304 万人で、同月最高であった 2019 年 5 月の訪日外客数よりも 約 20 万人上回り 3 ヶ月連続で 300 万人を突破した。インバウンド需要の増加は日本経済にプラスの影響を与えてくれる一方で、オーバーツーリズムが問題視されている。</p> <p>例えば、某コンビニエンスストアの屋根越しに富士山が撮影できるとして外国人観光客が殺到した。その対策として地自治体によって黒い幕が設置されたのは私達の記憶に新しい。しかし私はこの対策を疑問に思う。前にも述べた通り、インバウンドは日本経済にプラスの影響をもたらしてくれるものだ。外国人観光客に対して規制や禁止を提示するのではなく、先ほどのような名所を地元住民の生活に支障をきたさず観光できるように整備する等、観光名所にする努力が必要である。すなわち、黒幕を設置するのではなく綺麗な富士山をいかに見せてインバウンドの需要を吸収するかが大切なのである。私達にはオーバーツーリズムを経済効果に変えてしまおうという発想の転換が必要だ。</p> <p>そのようになれば観光客は日本を気に入って移住してもらえる可能性だってあり得る。</p> <p>現在深刻化している少子高齢化に対しても、経済的にも、外国人がこれからの日本を支える非常に重要な役割を担うことは間違いない。だからこそ、今後我々日本人が外国人とどのように共存していくかについてじっくり考えていく必要がある。</p>	



2. 中島 紗良	Expressing your feelings "in English"
	「英語で」伝える
<p>約 15 時間の長時間フライトを経て到着したイギリスでの短期留学は、色々な意味で、想像していた「留学」とはかけ離れたものだった。私が初めて海外を訪れたのは、学校主催の 10 日間英国短期研修プログラムでのことだった。空港からの移動中のバス車内で、突然、ホストファミリーの変更を知らされたり、ホストファミリーと会ってからも、ネイティブスピーカーと英語でコミュニケーションをとることの難しさを身をもって感じたり、こんなにも留学は想像通りにはいかないのか、と最初は思っていた。しかし、現地の日系企業を訪問した際の社員の方の言葉に、私は胸を打たれた。その日を境に、私の英語に対する捉え方が劇的に変わった。研修中に通った現地の学校の先生に向けた感謝のスピーチや、3 週間の英国留学や国内留学、大学の英語プログラムなど、英語能力を向上させるために様々なプログラムに参加した。これらの経験を通して、私は英語で自分の考えや気持ちを伝える大切さを学んだ。英語を使うだけで、地域社会にとどまらず、環境・地球にさえ影響を与えることができるという可能性を身をもって体感した。また、フランスから帰国した母の友人のエピソードを踏まえ、日本は英語「で」学ぶことを推奨すべきだということも感じた。私の様々な英語関連の経験から学んだことを、このスピーチに込める。</p>	

3. 米澤 心花	Global Food Imbalance
	世界の食の不均衡
<p>今年の元旦に起こった能登半島地震では、多くの被害がありました。その 1 つは避難所での食料不足です。このニュースを見て、食料不足はどこでも、日本においても起こり得ることを実感しました。私は幼い頃、母から食べ残しや、好き嫌いはいけないことだと教わりました。しかし、私はその時本当の意味を理解することはできませんでした。後に、世界には毎日ご飯を食べられない子どもたちが無数にいるという事実を知り、初めてその意味を理解することができました。私は、節分の日翌日、スーパーの片隅で大量に売れ残っている恵方巻を見て、とても心が痛みました。恵方巻きは今や全国に広まっています。これは節分の日が過ぎると、売れ残った恵方巻が日本中で廃棄されていることを示唆しています。恵方巻は縁起物であるはずが、皮肉にも食べ頃を過ぎると不人気品になってしまうのです。</p> <p>実は、先進国では食べ残しは廃棄され、発展途上国では飢餓に苦しむ人が増加するという「食の不均衡」が起きています。世界人口の増加に伴い、世界の食料需要は年々増加しています。今私にできることは、スーパーで消費期限の近い商品を意識的に購入すること、冷蔵庫にあるものをきちんと消費することや、発展途上国を支援する団体へ定期的に寄付していくことだと考えています。食品ロスについて知識を深め、身の回りの人たちと共有し、一緒に考えることが問題解決の第一歩になるのではないのでしょうか。</p>	

4. 桂 りり	The importance of accepting international students 留学生受け入れの重要性
<p>グローバル化が進む社会に適応するために、日本人に必要とされる能力は「英語力」であるといえます。しかし、国際語学教育機関である「EF エデュケーション・ファースト」が、2023年に、英語を母語としない113の国と地域で行った英語力調査によると、日本人の英語力は113カ国・地域中の87位、アジア23カ国・地域では15位でした。つまり、日本は先進国であるにもかかわらず、5段階中の4番目となる、世界的に見て「英語力能力が低い国」と認識されてしまうような、散々な結果でした。このままいくと、いくら日本が「最強の技術大国」だと言われたところで、この英語力では、グローバル化がどんどん進む世界に遅れをとるのではないかという疑問まで浮かんできます。つまりここから、日本人に必要で、かつ、現在不足しているものは英語力であると言えます。母語である日本語と、英語、韓国語を習得した私が考えるには、他言語を習得するためには「他国文化への興味関心・理解」が必要です。しかし現実はそのとは裏腹で、日本人の中で、日頃から他国文化に触れる機会が多いの方が少数派だと考えます。また、日本は先進国の中でも、他国からの留学生の受け入れ数が比較的低いと言えます。だからこそ、日本は将来的に、積極的な留学生の受け入れを行い、異文化交流を促進させるべきだと考えます。このスピーチでは、留学生の積極的な受け入れによって想定される良い結果と悪い結果を発表した上で、今後の日本がどうあるべきかを、未来を担う若者の1人である私が考えたものを発表します。</p>	

5. 山下 藍未	Teaching English: More Than Just AI AIを超えた英語教育の魅力
<p>私の夢は中学校の英語教師になることだ。しかしながら AI 技術が急速に発展する中で「これからの時代に英語を学ぶ必要はある？英語教師は必要？」こうした疑問が様々な場面で言われるようになった。私は小学校や中学校で多くの先生に励まされ、英語を学ぶ楽しさを知り英語教師になりたいと思うようになったが、子供たちにも私と同じように英語を話せる喜びを感じてもらいたいという強い思いがある。AI 技術により一人ひとりに最適な学習プランを提供し、学習効果が飛躍的に向上するかもしれない。しかし、私は AI がどれだけ進化しても、教師の人間的な役割を完全には代替できないと考える。教師は単に知識を教えるだけでなく、生徒のやる気を引き出し、感情的なサポートを提供する存在であるのだ。中学3年生の修学旅行中、京都のバスの中で外国人観光客に話しかけられた時の経験をお話する。最初は緊張したが、最終的には楽しく会話ができ短い時間だったが初めて会った外国人と心が通った気がした。同乗していた英語の先生に「ちゃんと話せている！ほんとにすごい！」と言われたことがこの上なく嬉しかった。私は教師になり、子供たちに自らの言葉による人間同士のコミュニケーションの素晴らしさを伝えたい。テクノロジーの進化は素晴らしいが、教育における人間的な要素は決して失われるべきではない。AI が提供できない心のつながりと感動を、教師という存在がもたらすことができるのだ。</p>	

6. 浅賀 葵	Conversations with My Own Heart and My Own Words
	<p data-bbox="555 181 927 215">私の気持ちと言葉で紡ぐ会話</p> <p data-bbox="124 235 1388 866">「あれ、これってどう言うのかな？」ALT と英語で会話をするとき、自分の話したいことに自信のなかった私は、すぐに翻訳機能を使って表現について調べ、相手と簡単に意思疎通をとることができた。翻訳機能は便利であるが、英語を話す力がつくわけではないため、話すことを躊躇っていた状況は変わらなかった。しかし、私はある経験から、英語を使って会話することに自信を持つことができた。私は昨年夏、オーストラリアへ短期留学に行った。現地の人と会話してみると、半分ほどしか話の内容を理解することができなかった。そこで、勇気を持って自分自身の言葉で「それ、どういうこと？」と尋ねると、私が理解するまで根気強く教えてくれた。このことをきっかけに、「もっと自分で理解して会話ができるようになりたい！」と強く思うようになり、自分の言葉で会話を続け、理解しようと、努力するようになった。そして、いつの間にか自然と会話が続くようになった自分に気づき、「理解できてる！」「話せてる！」と、相手とつながっていると実感でき、自信を持つことができた。もし、翻訳機能に頼って会話をしていたら、こういった感情を味わうことはなかっただろう。昨今、翻訳機能の進歩は目覚ましい。しかし、真の会話は、相手と会話したいという自らの気持ちと言葉によって成り立つと思う。翻訳機能というフィルターを通さずに、自身の言いたいことを自らの言葉に乗せて相手に伝えてみたらどうだろうか？相手との会話の世界が変わるはずだ。</p>

7. 河村 翔	Race doesn't matter
	<p data-bbox="555 1025 815 1059">人種なんて関係ない</p> <p data-bbox="124 1079 1388 1758">人種差別問題について最近耳にすることが多くなったと感じる。そもそも人種差別の始まりは何であったのだろうか。16 世紀以来アフリカ大陸各地から多くの黒人が南北アメリカや西インド諸島に送られ奴隷として扱われた。奴隷貿易の商品として売り出されたのである。1948 年にはアパルトヘイトが始まった。黒人差別が合法になってしまった。実は小さな生き物の中にもいじめのようなものは存在している。生き物の中でそのような由々しき事態が起こることはある意味必然なのかもしれないが私たち人間は考え行動しそれを対処する力を持っているのではないだろうか。人を第一印象で決めつけてはいけない。世界には様々な人種が存在しそれぞれ違った思考を持っているが人は人でありそこに差はない。個々の信念や考えを他人に強要するということが差別に繋がっている。また過去の差別が今も名残として残っている場合もある。他国に対する偏見などもこの 1 種である。これを解決するには教育方法の再検討が必須であることは明確だろう。他国の文化に触れる機会を増やしこの問題を解決しなければならない。「百聞は一見にしかず」ということわざがあるように文化というものを学ぶだけでは解決に対して大きな力を持たない。さて、私たちに出来ることと言えば何か、それは知る努力をすることである。私たちが知ろうと思いついた時初めて多文化との交流が始まる。意欲的にならなければそれはただの暗記になってしまうだろう。この行動こそ世界を変える鍵となる。</p>

## 発表要旨（高校の部 後半）

8. 関原 みなみ	A Dream of a Girl Who Did Not Like English
	英語嫌いだった私の夢
<p>私は英語が嫌いだった。小学校低学年の英語の授業では、英語教室に通う友人達がゲームやアクティビティを楽しむ中、英語教室に行っていなかった私は先生の言う英語が全く理解できず、教室にいることさえ嫌だった。しかし、5年生の時母に連れられて行った英語教室で、私の英語に対するイメージが変わった。その英語教室の先生は、勉強しよう、という代わりに、楽しもう、と言ってくれた。難しい勉強も宿題もないその英語教室では素直にゲームやイベントを楽しめた。この先生との出会いで英語が好きになった。</p> <p>高校生1年生の春休みにはオーストラリア研修に参加した。そこでは2週間のホームステイや現地校の授業体験があったが、ホストファミリーや現地でできた友人達と自分のことや日本のことについて話したり折り紙をしたりするうちに、周囲で見ていた現地の生徒たちから声を掛けられることも増え、心の底から英語での交流を楽しむことができた。</p> <p>将来は栄養士になりたいと思っている。今、日本には多くの外国人が暮らしていて、その中には日本語が障害となり、暮らすのに必要な情報が十分に得られない人もいると聞く。食事を通して栄養を摂取することは誰にとっても重要だ。日本にいる外国人の方々が、十分に栄養を摂取して健康的な生活を送れるよう、英語でアドバイスをしたり日本食の良さを広めたりして、日本文化と外国の人々をつなぐ架け橋として情報発信をしていけるような栄養士になりたい。</p>	

9. 春田 美紀	Do we have to make all public high schools coeducation schools?
	公立高校の男女共学化を進めるべきか？
<p>私は春日部女子高校に入学してから4ヶ月がたった。私はこの学校を好きになった。しかし、女子校である春日部女子高校に私は通えなくなってしまうかもしれない。現在、世の中では別学の公立高校の共学化を進めるべきかという議論が活発に行われている。しかし、私は別学の共学化に反対する。現代は多様性が尊重される時代である。では、高校受験を考えている生徒が高校を選択する選択肢の中に共学だけではなく女子校、男子校、という「多様な選択肢」があるのは良いことではないのだろうか。このまま別学高校の共学化が進んでしまったらこの多様な選択肢が減り、子どもたちの未来すら狭めてしまう可能性もある。現在は少子化が進んでいるため共学化することによって志願倍率が安定するという利点はある。だが、現在の春日部女子高校の倍率は安定しているため早急に春日部女子高校を共学化する必要はないと言える。今回、埼玉県で別学校の共学化の運動を始めるきっかけとなったのは、「県立の男子校が女子の入学を拒むのは不適切だ」という一通の訴えから始まっている。別学校を選択する生徒には、「異性が苦手だから」「女子校、男子校に通いたかったから」という理由で選択する生徒が多く存在する。現在、埼玉県には一万人以上が公立の別学校に在籍している。数の大小で議論すべきではないが別学校に通いたいと訴える在校生・県民の意見を無視して良いのだろうか。</p>	

10. 西 遙空	"Connecting through Food: Understanding International Challenges" 食べ物を通じたつながり:国際的な課題を理解する
<p>私は小学生より関心を抱いていたフードロス問題や、中学生の時に体験した農業体験などを通して、世界の食糧問題について考えるようになりました。</p> <p>日本では作り過ぎによる食糧廃棄が問題になっている一方、世界の貧困国では私達と同世代の子供達が満足に食べる事ができない、教育を受ける事が出来ないという課題を抱えている事がわかりました。</p> <p>そうして私はアフリカの最貧国のひとつであるマラウイという国に関心を持つようになりました。マラウイの子供達は、約半数が初等教育を中退してしまいます。しかし、もしも学校に行けば給食を食べる事が出来るならば学校に通う理由が出来ます。教育を受ける事により、未来を切り開き、最貧国を抜け出すきっかけを作る事が出来るのではないのでしょうか。</p> <p>そうして私は、自分にも何か出来る事はないかと考え、マラウイの主要産物であるコーヒー豆をフェアトレードにより販売し、マラウイの子供達へ給食支援を行うボランティアに参加しました。コーヒー豆の販売は、思っていたほど簡単ではありませんでしたが、お客様に想いを伝える事で、一日で2173食もの給食支援を達成する事ができました。</p> <p>このボランティアを通して、食糧問題について深く学ぶ事が出来ました。</p> <p>世界には私達の想像を越えた問題がまだまだ溢れています。別世界で起きている事と考えず、自分事として様々な問題とこれからも向き合っていきたいと思っています</p>	

11. 下田 有紗	Touching unknown happiness 未知の幸せに触れること
<p>「幸せ」とは何か。この言葉にどのような価値観をおいているかは人それぞれであり、世界に目を向けても各国でその考え方は異なる。先進国と呼ばれる日本で生活している我々にとって、幸せの定義は経済的、学力的に申し分なく生活しながら自分の世界にのめりこんだり、新しい未来への希望を膨らませたりすることではなかろうか。幼少期から学歴社会に強制される昨今の状況は、学力を重視する社会の風潮から形成された客観的幸福度の物差しであり、我々は無意識のうちにボーダーラインを形成してしまっている。私もたびたび、そんなに学力が低かったら社会に出られないよ、将来幸せになれないよといった言葉を聞くことがある。本当にそうであろうか。他方、発展途上国地域であるアフリカの人々の幸せの定義とは、「今」を楽しむという主観的幸福感である。自分の在り方を模索しながら「今」を生きるという価値観は、現在に日本人にとって欠如している捉え方ではないか。また、情報化が進んでいる先進国では、テキストでの交流が盛んであるが、発展途上国の人々は人同士の結びつきが強く、直接的な交流による幸せを感じているはずだ。人は人と直接的につながることで気づかぬうちに幸せを感じている。一人で勉強し、淡々と働いて収入を得ることも大切であるが、各国の置かれている状況によって価値観の相違があり、「幸せ」の定義に正解はないが、世界に目を向け、自分にとって新しい幸せを見つめることは自分の幸せにもつながっていくのだ。</p>	

12. 平田 心花	Omotenashi brings a big smile to the people おもてなしで人を笑顔に
<p>私は今、男子バレーボール部のマネージャーをしている。ドリンクを作ったり、床の掃除をしたり、ボール拾いなどの仕事をする。選手が心地よくプレーできる環境を作ること、それが私が目指すおもてなしの一つではないかと考える。</p> <p>試合に勝ったり、「ドリンクが美味しい」「床が滑らなくてプレーしやすい」と言ってくれたり、ボールを素早く拾うことで効率的に練習が進められた時、「マネージャーをやって良かった！」と仕事の大変さ以上の喜びを感じる。マネージャー業を通して、もっと多くの人を笑顔にできるようなおもてなしをしたいと思った。私にとって、おもてなしとは「相手を想って最高の環境を作ること」だ。訪問客の歓迎だけでなく、次に使う誰かのためにトイレを掃除することも立派なおもてなしである。私の夢はディズニーキャストになることだ。ディズニーリゾートでは大量のゴミが出たり、長い待ち時間で退屈してしまう人もいる。キャストは掃除をしたり、案内をしながら、全力でゲストを楽しませようと最高の環境作りをしている。今は夢の国で、人を笑顔にすることが私の目指す理想のおもてなしだと考える。</p> <p>この秋、私はフランス人を受け入れ、春にはフランスへの短期留学が決まっている。フランス人に日本の普段の日常の魅力を伝えられる様なおもてなしをしようと思う。そして私は国籍や年齢や性別を問わず、おもてなしを通して、できるだけ多くの世界の人を笑顔と幸せにできる人になりたい。</p>	

13. 伊藤 千悦	We tread together 共に歩む
<p>かつて私は発達障害(自閉症)を持つ子供たちが通うリハビリセンターを訪れた。以前は全ての若者が同じように幸せに生活していると思っていた私の認識が変わった。最初は不安でいっぱいだった私は、子供たちの独特な言語、表情、行動を特徴とする、自分たちと異なる世界に遭遇した。最初はコミュニケーションを取ることが難しかったが、絵を描くことを通して、ある少女との間につながりが生まれた。この体験は、好奇心やゲームの楽しさなど、2人の間に思いがけない共通点があることを気づいた。この経験は、私の現代社会についての見方を変えた。さまざまなメディアを通じて、自閉症や他の先天性疾患を持つ人々について、彼らの特異な特徴、病気の状態や生活の不便さなど、私たちの好奇心を満たす情報を得た。知れば知るほど、彼らの特徴を理解するようになった。また、この経験は、それとは異なる発見を私に教えてくれた。異なる環境や異なるライフスタイルの下でも、私たちには多くの共通点があるのである。私たちは皆、病気や苦しみから解放された幸福な環境で生きる権利を持つ平等な人間である。</p>	

14. 永島 安紗	The Journey of Mount Fuji as a World Heritage Site
	世界遺産「富士山」の軌跡
<p>日本の世界遺産である富士山は、その美しい姿と文化的意義から、古来より日本の顔とも言える役割を担っています。しかし、富士山が世界遺産に登録されるまで、とても長い時間を要したことはあまり知られていません。ということで、今回のスピーチでは、富士山が世界遺産となるまでの軌跡についてお話しします。富士山は古くから神道や仏教の聖地として崇拝されてきました。そんな歴史的価値の高さから 20 世紀後半になると、世界遺産に登録しようという動きが本格化し、地元自治体や文化団体の協力のもと、その自然的価値を証明するための準備が進められました。しかし、環境保護に関する懸念から、20 年近く登録の見送りが続きました。この課題に対処するため、環境保全プロジェクトが強化され、環境配慮型の公衆トイレの設置やボランティアによる清掃活動などが進められました。こうした努力の結果、2013 年 6 月 22 日、富士山はついに世界遺産に登録されました。登録の対象には、富士山そのものだけでなく、富士五湖や白糸の滝など、周辺の文化的・自然的資産も含まれています。これにより、富士山はその風光明媚さだけでなく、日本文化における精神的な象徴としても国際的に認められるようになりました。この一連の出来事は、私たちが誇るべき文化的・自然的遺産を保護する重要性を教えてくれたと言えるでしょう。以上がスピーチの概要になります。この発表が、皆さんにとって富士山や世界遺産への興味を深めるきっかけとなれば幸いです。</p>	

15. 馬場 璃央	My dream nurse
	憧れの看護師
<p>みなさんこんにちは。本日はお越しいただきありがとうございます。これから私の夢について話していきたいと思います。</p> <p>私の夢は看護師になることです。私は小さい頃「将来の夢」というものを明確に持っていませんでした。私の母、祖母、また叔母も看護師ということもあり、最初はなんとなく「看護師になりたい」と思っている程度でした。そんな「看護師になりたい」という気持ちが鮮明になったのは小学 6 年生の時です。母はその日上司との話があって、勤め先の病院に行く用事がありました。私はそれについていき、病院の中にある椅子に腰をかけ母を待っていました。私は待っている間、患者さんの容態を気にかけて話している看護師や患者さんに寄り添いながら車椅子を押す看護師を見かけました。そのとき私は、看護師という仕事は患者さんを直接的に助ける医師のサポートをするだけでなく、患者さんの病気に対する不安や大切な家族と離れていることへの孤独感などを払拭したり、患者さんに愛を持って接することも「看護師」を形成する一部分なのだと気づきました。そして、私はそんな患者さんの「心の支え」になっている看護師に惹かれ、彼女たちが私の「憧れの看護師」となりました。私が看護師になったら、病院で見かけた看護師たちのように、患者さんに思いやりを持って寄り添い、病院を、患者さんにとって安心できる居心地の良い場所にしていきたいと考えます。</p> <p>私は今高校 2 年生で、看護師になるために精一杯勉強しています。これから、勉強に励んでいく道のりで途中で、「辛い」と思うことがあるかもしれませんが、私は決して諦めないでしょう。「憧れの看護師」になるために。</p>	

# お願い

## 登壇者の方へのお願い

### ① 制限時間について

- ・高校の部、大学の部ともに6分です。
- ・制限時間を過ぎた場合、減点の対象となりますので、注意してください。
- ・最初の言葉が発せられてからタイムの計測を開始します。
- ・発表終了後、チャットで計測結果をご連絡いたします。

### ② 登壇について

- ・発表はプログラムに記載された順番で行います。
- ・審査の都合で、各発表者の間に若干時間を必要とします。
- ・この時間を利用して、次の発表者の方は、カメラおよびマイクをオンにしてください。
- ・また会場内の音量調整を行うため、会場から発表者に声がけを行わせていただきます。その際は、ご協力ください。よろしくお願いいたします。

## 視聴者の方へのお願い

- ・カメラとマイクがともにオフであることをご確認ください。
- ・コンテストの内容を許可なく録画することはご遠慮ください。
- ・コンテストの進行の妨げとなるような行為は行わないでください。
- ・観覧申込時に使用したお名前を表示してください。
- ・上記のお願いにご協力いただけない場合、強制的に退出の処置をとらせていただきます。

## 登壇者と視聴者へ共通のお願い

- ・発表をお聞きになったのコメントなどがございましたら、指定の方法\*でお知らせください。後日取りまとめたものを発表者にお届けいたします。
- ・いただいたコメントが審査結果に影響することはございません。



- ・コメントは下記の Forms より送信してください。

<https://forms.office.com/r/TSUbXZNbXs>





第13回 城西大学  
英語スピーチコンテスト  
実行委員会